

令和6年度

留学生が学び・住み・就職して良しの熊本県版・国際化推進事業

「外国人留学生に選ばれる熊本」プラン策定業務

【成果物】

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、《受託者の名称》が実施した令和6年度「専修学校の国際化推進事業」の成果をとりまとめたものです。

令和7年3月1日

一般社団法人熊本県専修学校各種学校連合会

1 件 名

R6年度国際化推進事業「プラン策定業務」業務

2 目 的

本業務は、専修学校の国際化推進事業において、『外国人留学生に選ばれる熊本～学んで良し・住んで良し、就職して良しの多文化共生のまち』を目指して、「外国人留学生に選ばれる熊本」プラン策定を行う。また、台湾人留学生向けの短期滞在受け入プログラムを策定する。

3 納品物件及び数量：

①「外国人留学生に選ばれる熊本」プラン策定 一式

②台湾人留学生向けの短期滞在プログラム策定 3プログラム

①「外国人留学生に選ばれる熊本」プラン策定

■「留学生選ばれる熊本」プランの位置づけ

・一般社団法人熊本県専修学校各種学校連合会は、文科省「専修学校の国際化推進事業」において、令和6年度から令和9年度の4か年間で、『留学生が「学び・住み・就職して良し」の熊本』（以下「本事業」という）を推進していきます。

・本事業は、熊本県内の専修学校や県内外の日本語学校及び県内企業・民間団体と熊本県国際交流団体が一体となり、戦略的な留学生の受け入れから熊本県内への定着を見据えた就職支援等を行っていくものです。

・そのために、専修学校の留学生の状況調査、熊本企業の外国人材雇用に関する実態調査、ターゲット国の訪問、送り出しの状況調査、及び熊本県外国人材との共生推進本部の取り組み、他の自治体、民間団体の取り組みを踏まえて、留学生の入学前から在学中〔教育指導、在籍管理、生活サポート〕、就職・定着支援が一通貫でできるよう『外国人留学生に選ばれる熊本』プラン（以下「本プラン」）の策定を行います。

プランの中では、IT分野、宿泊分野、介護分野とターゲット国ミャンマー、モンゴル、台湾の取り組みを言及します。

・本プランは、【外国人留学生に選ばれる熊本】を実現していくために、令和6年度から令和9年度の4か年間で、熊本県専修学校各種学校連合会が本事業の中で主体的に取り組む事業に加えて、熊本県全体で熊本県、各専門学校、業界団体が取り組むもの、また連携しながら推進していく事業を俯瞰的に整理・記載したものです。

■【専修学校の留学生受入れ実態調査より】R6年度事業

- ・県内で留学生を受け入れている専門学校数は9校で少ないが、受入れを検討している学校は20校である。
- ・留学生数630人で前年度438人より大幅に増えている。国別では、ネパール約8割で、偏りが顕著になっている。
- ・ターゲット3か国の留学生数9人とまだ少ない。
- ・卒業生の進路をみると、県外がR3年度71%、R4年度78%と圧倒的に多く、県内就職は3割に満たない現状である。
- ・留学生受け入れの問題点、課題は、**留学生の生活サポート100%と最も多く、学費等の支弁能力89%、日本語教師の質や確保という人材面の課題89%、在留資格、アルバイトの管理78%と留学生ならではの課題が多くみられる。**

【専門学校のヒアリングより】（前年度）

- ・福岡の日本語学校への広報に力を入れていきたい。
- ・熊本県での留学生への奨学金制度がほしい。（複数校）
- ・専門学校学生は、県内就職への道筋が見えるので、卒業後に県内企業就職のための「就学支援金」を設けてほしい。
- ・多文化共生の交流事業に対して企画、地域コミュニティのネットワークづくり。
- ・専門学校だけでは、県内への留学生の受入れは加速しない。就職先である県内企業の外国人材の採用、雇用に対する意欲や企業が支援する奨学金等の設置など検討してほしい。

■【企業における外国人材雇用に関する実態調査より】R6年度事業

- ・外国人を雇用する理由としては、国籍に関係なく優秀な人材の確保が39%と高く、業務上、外国語の使用が必要なため11%、海外展開に対応1%と、合わせてポジティブな雇用理由が51%になる。一方、次に日本人の雇用が困難が33%、日本人より賃金が安い3%と日本人雇用が難しいための理由もみられる。
- ・雇用に際し、又は雇用後に課題や問題は、日本語能力が19%、文化・価値観・習慣の違いが16%と高い。次いで手続き（在留資格等）13%、生活面でのフォロー12%と続く。
- ・一方で、日本語教育については、企業としては、特に対応していないが66%であった。外国人被雇用者が自ら学習・受講が22%であった。
- ⇒**雇用後の課題や問題は、日本語能力であるが、企業単独ではその対応をしていない、できていないのが現状であることがわかる。**
- ・今後外国人材の雇用について、現在募集中が14%、検討しているが32%、合計46%と多くみられる。**その在留資格は、技術・人文・国際業務が19%、技能実習が24%、特定技能が22%となっている。**
- ・外国人材を雇用する際の優先順位をみると、日本での生活歴が長い人材が24%と高い。**日本語能力が高いが24%、仕事に対して意欲的が23%、コミュニケーション能力が高いが13%となる。**一方、専門知識やスキルを有するが15%、問題解決能力が高いが1%とあり、専門性より日本語能力を含めた日本での生活に慣れている人材を希望する傾向にある。
- ・検討しているが雇用に至らない理由、又は、検討していない理由は、**社内に受け入れ体制が整っていないが28%、外国人への指導や煩雑な事務に対応できないが19%とあり、社内の体制の課題が大きいと言える。**一方、募集や雇用の仕方がわからないが9%とあり、雇用までの道筋が見えないことも課題としてある。
- ・外国人材の雇用に関するセミナー等の情報提供を具体的に希望する企業が45社にのぼり、関心の高さと共に、企業への外国人材の雇用・定着にむけた取り組みや専門学校の卒業生と企業のマッチング支援をサポートできるデータを収集することができた。

■【ターゲット国の訪問、送り出しの状況調査より】 R6年度事業

◎モンゴル

- ・熊本県内外の日本語学校及び専門学校（日本語課程あり）との個別提携の促進
モンゴルの日本語教育機関から既に関東、大阪の日本語学校への一定のルートが構築されているものの、これから熊本への流れをつくることは十分可能である。
- ・熊本県の魅力＋個別専門学校のPR、及び日本の専門学校をブランディング
モンゴルの日本語教育機関で学ぶ学生向けに、動画・パンフレット（デジタルパンフ）で、熊本県で学ぶ、住む、就職することを、視覚的に魅力が伝わり、統一感があるものを作成する。合わせて、日本の専門学校のブランディングを行いたい。
- ・熊本県のモンゴル国内での熊本県の留学フェアの開催
モンゴル国内での熊本県の留学フェアについては、単発の学校ブース出展だけでは参加意欲につながりにくい。イベント的要素が必要だと考えられる。
- ・「熊本県・専門学校で学ぶ、住む、就職する」ための受入れ体制、仕組みづくり
（例）熊本県独自の奨学金の設置、熊本県独自の生活費支援、アクティビティプログラム提供、熊本インパクトを創出するしかけづくり、熊本を体感する「モニター留学生ツアー、熊本県モンゴルコミュニティとの交流促進等。

◎台湾

- ・短期・遊学での受入プログラムを設置すれば、台湾人のニーズに合い、留学生の受け入れを進めやすいのではないか。
- ・留学先として九州を選択する学生が少ない（東京、大阪）。
旅行で訪れた経験から、留学地を決める方もいるので、熊本県の観光や魅力発信に力を入れる必要がある。
- ・熊本を留学先に選んだが、日本語学校の受入可能な枠が少なく、留学先を福岡へ変更する学生もいる。
- ・TSMCの影響で、熊本に対する問い合わせが増えてきているが、短期での受入プログラムが無く、熊本への留学を諦める方もいる。
- ・他地域の先行事例を参考にしながら、寮や生活面でのサポートを行えば、留学生に選ばれる熊本に近づけるのではないかと。
- ・遊学(短期プログラム)プログラムの促進 1～2W/1～3か月間のプログラム。

◎ミャンマー

- ・経済的に厳しい学生が多く、奨学金制度の充実が求められている。国の情勢もあり、日本への留学のニーズや可能性は高い。日本語学校の教育の質の差が大きいことから、正しい情報を共有する仕組みが求められている。
- ・近年は特定技能から留学への在留資格変更を行うケースも出てきている。特定技能生の受け入れに対して専門学校側が慎重な姿勢であり、進学支援体制が不十分といえる。
→学校側の審査基準の見直しや、企業との連携を強化することで、特定技能生が安心して進学できる環境を整備していく必要がある。
- ・介護分野の留学生の供給はある程度見込める。

■ R6年度事業の課題と総括

* R6年度の事業で、熊本県、企業の3分野の業界団体、多文化共生の民間団体との連携を含めた体制を固めることができた。

* 専修学校の在留学生調査から、留学生は630人と大幅に増えたが、個別の専門学校の留学生数が大幅に上がったのみである。新たに受け入れたいが13校とあるので、県内全体での受け入れ学校、学科数の拡大、留学生数の拡大の可能性はある。

ターゲット国の留学生は9人と少ないので、今後の具体的な手立てを必要とする。

また、ターゲット国以外の国からの留学生を含めて熊本への留学生を全体的に増やすことや、ターゲットとしているIT、観光、介護以外の職種の専門学校をも視野に入れるため、このターゲット以外の分野であっても今後留学生を受け入れられないかの検討を行い、取り組みの幅自体を拡大する可能性についても検討したい。

* 初年度の訪問で、各ターゲット国・ターゲット分野における日本語教育機関等の提携の素地はできた。一方で、ミャンマー、モンゴル、台湾からの第一段階で留学生を受け入れる日本語学校（日本語課程）が、まだ開拓されていないのが最大の課題である。

* 台湾については、遊学・短期プログラム（1～2W/1～3か月間、語学+観光、文化体験、語学等）の開発を行い、専門学校として受け入れ促進する。

* 各国によって、広報手段は変わるが、「熊本県・専門学校で学ぶ、住む、就職する」ことを動画・パンレット（デジタルパンフ）で、視覚的に魅力が伝わり、統一感があるものを作成する。（個別の専門学校の情報+熊本の生活や就職、定着魅力への訴求力）

* モンゴル国内での熊本県の留学フェアは、単独開催では参加意欲につながりにくい。留学フェアへの出展やジャパンフェスティバルへの参画を検討する。

* 在学前、在学中の留学生向け日本語能力強化策では、多言語学習アプリの運用導入で、モンゴル語、中国語（繁体）2か国の翻訳は完了したので、利用者数を増やして活用を促進していく。

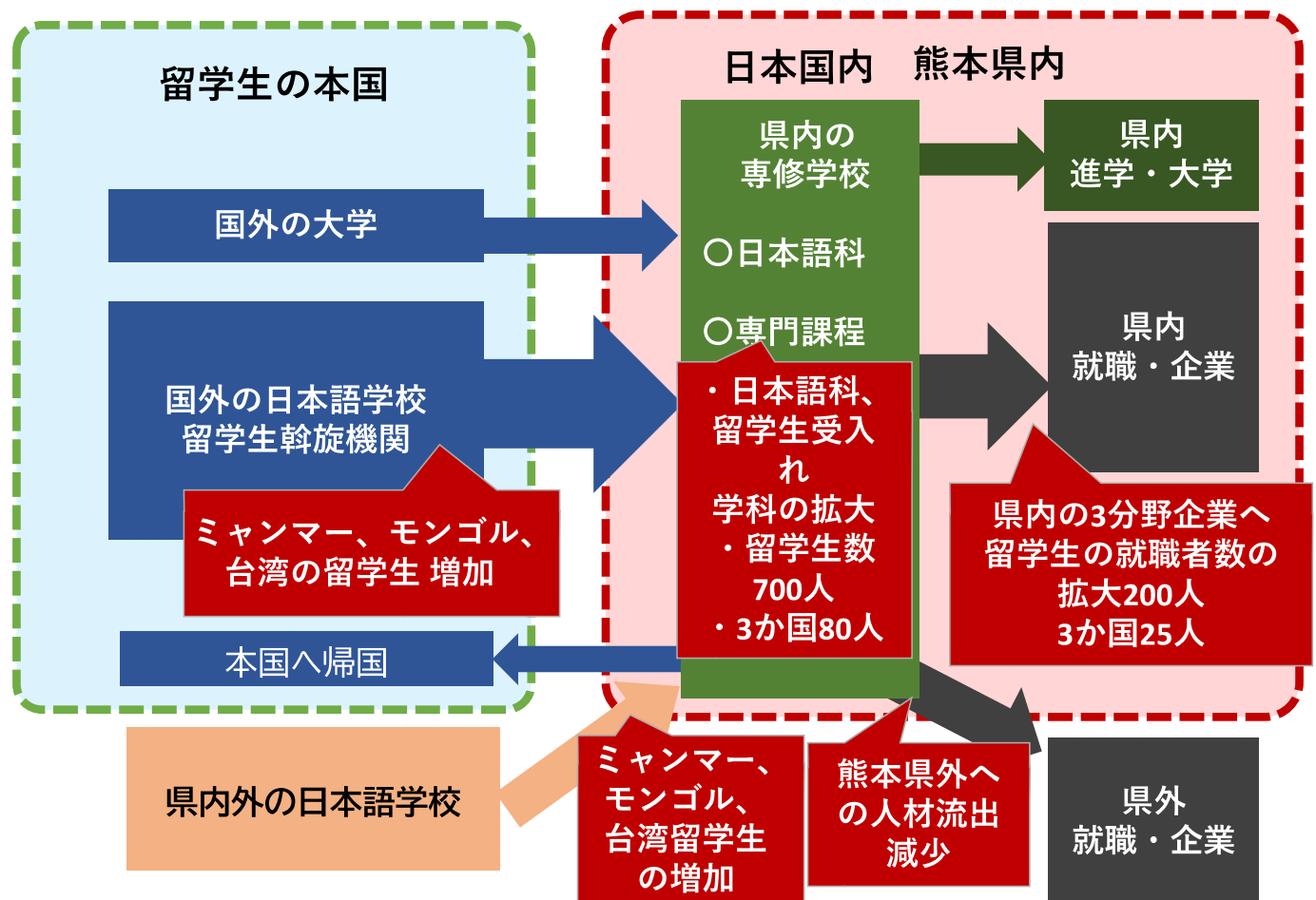
* ミャンマー国内では、SNSを活用した情報発信が効果的。オンライン説明会も有効である。現地でのワンストップ情報センターの設置が重要である。

■熊本県：専修学校への外国人留学生の入学、卒業、進路の流れ

- 外国人留学生の専修学校へのアプローチについては、下記の図にあるように、「本国から直接入学」「近隣の日本語学校又は専修学校の日本語課程」や「・在籍1年～2年間」「・日本語能力 N5⇒N3」といった条件を経ての入学となっている。
- ・全国的には、卒業後の進路に関しては「2021（令和3）年度外国人留学生進路状況調査の結果」にあるように、37.7%が日本国内への就職、21.9%が日本国内への進学、その他が15.1%と74.8%が日本国内での在留という結果が出ている。

- ・県内留学生の5割は、本国からの直接入学で、専門学校の日本語科に入る。
- ・卒業生の進路をみると、県外就職55%、県内就職20%、県内進学9%、県外進学8%となる。
- ・就職の内訳をみると、県外がR3年度71%、R4年度78%と圧倒的に多く、県内就職は3割に満たないが現状である。進学については、県内の学校へが少し多い傾向である。

事業終了（R9年度）の熊本県留学生の流れイメージ



■【熊本県外国人材との共生推進本部より】

＊熊本県のR6年度事業で、本事業に関係・連携する事業を抜粋する。

R7年度事業については、事業予算が確定次第、関係・連携する事業を記載していく。

- ・熊本県外国人サポートセンター運営事業（国際課）
- ・地域日本語教室推進事業（国際課）
- ・留学生誘致支援事業（企画課）～「一般社団法人大学コンソーシアム熊本」の留学生誘致に係る以下の取組みを支援（大学のみ）
- ・外国人留学生奨学金等支給支援事業（高齢者支援課）～介護福祉士資格取得を目指す留学生のために、介護施設等が実施する奨学金の給付に要する経費を助成。
- ・外国人材誘致事業（商工政策課）～送出国向けに現地語で熊本で働く魅力をPRする動画、パンフレットを作成。SNSを通じた広告配信を実施等
- ・外国人材活躍促進支援事業（商工政策課）～外国人材受入事業者へ「やさしい日本語講座」個別企業支援、外国人材受入セミナーの実施等
- ・外国人材マッチング事業（商工政策課）～外国人材の雇用に関する相談「熊本県外国人材受入企業支援センター」を開設。外国人材と県内企業のマッチングイベントを実施等
- ・観光産業復興による雇用創出事業（観光振興課）～専門学校等と連携し、観光関連事業者を集めた合同就職フェアへの参加を促進。
- ・外国人観光客の受入環境整備（観光振興課）～観光公式サイト・SNSでの多言語での情報発信、観光パンフレット、観光案内標識の多言語化。

■【民間団体、業界団体の取組み】

◎KUMOMOTO KURASU

以下の取組みをされており、多文化交流の場、多文化共生の情報交換の場で、連携していく。

① 情報交換・議論・提言（例）

～熊本県の産業界が外国人材を呼び込むための「熊本宣言」を発信。

② コラボレーション支援

～（例）防災支援団体と、外国人雇用企業協働の「防災」の取り組み。

③ 次世代を担う産業人材づくり

～（例）大学・高校とのネットワークを活用した、インターンプロジェクトの実現。

④ 県外とのネットワーキング

～（例）オンラインセミナーで、海外送り出し機関や最新の情報を照会

■「留学生選ばれる熊本」になるための施策案

基本理念

【外国人留学生に選ばれる熊本】

学んで良し・住んで良し、就職して良しの多文化共生のまち・熊本

基本方針（案）

具体的な施策・事業（案）

本プランは、【外国人留学生に選ばれる熊本】を実現していくために、令和6年度から令和9年度の4か年間で、熊本県専修学校各種学校連合会が本事業の中で主体的に取り組む事業に加えて、熊本県全体で熊本県、各専門学校、業界団体が取り組むもの、また連携しながら推進していく事業を俯瞰的に整理・記載したものである。

熊専各

専門学校

～熊本県専修学校各種学校連合会、専門学校が主体的に行う事業で、R7年度に計画している事業を記載。

熊本県

～熊本県のR6年度事業で、本事業に関係・連携する事業を記載。

K-KURASU

～KUMOMOTO KURASUのR6年度事業で、本事業に関係・連携する事業を記載。

1. 県内に留学したくなる受入れ促進を支援する取組み

- ①-1. 専修学校向け「新規留学生・受入れ促進の懇談会」 熊専各
- ①-2. 専修学校状況アンケート調査 熊専各
- ①-3. 「外国人留学生に選ばれる熊本」プランの進捗確認 熊専各
- ①-4. 留学生向け学費・住居費の一時金支援の設置の検討 熊専各
- ①-5. 多言語パンフレット、動画制作 熊専各
- ①-6. SNS等による情報発信・広告 熊専各
- ①-7. ターゲット国での熊本留学フェアの開催 熊専各
- ①-8. ターゲット国内でのワンストップ情報センターの設置 熊専各
- ①-9. ターゲット国の日本語教育機関及び国内日本語学校との提携 熊専各
- ①-10. 留学生誘致支援「（一社）大学コンソーシアム熊本」支援（企画課） 熊本県

基本理念

【外国人留学生に選ばれる熊本】

学んで良し・住んで良し、就職して良しの多文化共生のまち・熊本

2. 県内で学びたくなる、住みたくなるを支援する取組み

- ②-1. 台湾人留学生向け短期滞在受け入れモニター実施 熊専各
- ②-2. 留学生向け日本語能力強化策（多言語学習アプリ運用） 熊専各
- ②-3.(①-4.と重複)留学生向け学費・住居費の一時金支援の設置の検討
- ②-4. 熊本県外国人サポートセンター運営（国際課） 熊本県
- ②-5. 地域日本語教室推進（国際課） 熊本県
- ②-6. 観光公式サイト等での多言語での情報発信、24時間多言語コールセンターの設置（観光振興課） 熊本県
- ②-7. 「熊本県24時間多言語コールセンター」活用の医療機関受診支援（医療政策課） 熊本県
- ②-8. 多文化交流の場、多文化共生の情報交換の場 K-KURASU

3. 県内で働きたくなる就職促進を支援の取組み

- ③-1. 教職員向け「在留管理、就職支援セミナー」 熊専各
- ③-2. 企業・団体向け「外国人就職に関する定期的情報提供」 熊専各
- ③-3. 企業向け「留学生・外国人受入れ促進セミナー」 熊専各 熊専各
- ③-4. 「留学生就職・定着フェア」「外国人材と企業のマッチングイベント」
- ③-5. 外国人材活躍促進支援「やさしい日本語講座」（商工政策課） 熊本県
- ③-6. 相談窓口「外国人材受入企業支援センター」設置（商工政策課） 熊本県
- ③-7. 送出国向け熊本で働く魅力のPR動画、パンフレット、SNS配信 熊本県
- ③-8. 熊本で適切に働き、生活するための仕組み作り K-KURASU

【受入れ態勢の整備】**①-1. 専修学校向け「新規留学生・受入れ促進の懇談会」開催****熊専各****専門学校**

- ・専修学校の留学生受入れ校、受入れ学科の拡大を目指す
- ・対象者：県内の留学生受入れを検討する専修学校の経営者・担当者
- ・回数：リアルとオンラインを併用して2回実施
- ・R6年度の結果や既に受け入れている学校の事例を踏まえて、留学生受入れの課題解決の方策等を軽薄していく。

①-2. 専修学校状況アンケート調査**熊専各****専門学校**

- ・専修学校の在留学生、卒業生の状況アンケート調査
- ・県内の専門学校：40件
- ・R5年度、6年度と同等にアンケート調査を行い、専修学校の受入れ実態を経年的に把握する。
- ・学校の方針：令和8年度の留学生の受け入れ希望数：令和8年度以降の留学生を受け入れていくにあたっての問題点、課題等

①-3. 「外国人留学生に選ばれる熊本」プランの進捗確認**熊専各**

- ・R6年度に策定した【外国人留学生に選ばれる熊本】プランについて、熊本県、行政、専修学校、業界団体、民間団体がR7年度にどのように事業を推進しているかの進捗確認と共に、R8年度以降の施策案を更新していく。
- ・国際化事業実施委員会等で進捗の確認と関係団体へのヒアリング
- ・（一社）大学コンソーシアム熊本の留学生向けワンストップ相談窓口との連携もはかる。

①-4. 留学生向け学費・住居費の一時金支援の設置の検討**熊専各**

- ・関東・関西・福岡等に比べて認知度の低い、熊本県へ留学生を受け入れるため、優位性が出る仕組みが重要である。
- ・留学生向け一時金支援等を設置して提供することを検討していく。

（例）国の制度を活用して、外国人留学生奨学金等支給支援事業（高齢者支援課）にて、介護福祉士資格取得を目指す留学生のために、介護施設等が実施する奨学金の給付に要する経費を助成している。

（例）留学生への熊本県内住宅における連帯保証制度の補助
（民間の保証会社との提携）

（例）一時金支援の設置

- ・鹿児島県国際交流協会：留学生支援事業「留学生支援資金貸付制度」。
- ・公益財団法人とやま国際センター：留学生支援事業「富山県国際交流奨学金の交付」。
- ・初年度、限定枠数を設け、4年コース（日本語学校2年＋専門学校2年）への学費や熊本居住促進のための一時金の支援を行う。

【情報発信の強化】

①-5. 多言語パンフレット、動画制作 熊専各 専門学校

- ・熊本県の専修学校を広く国内外に発信し、より多くの外国人留学生在が熊本県を留学先として認知し、各専修学校の外国人留学生誘致をサポートとするものとして、熊本県で学ぶ留学生が様々な支援サービスの情報を容易に入手できる多言語パンフレット(デジタルパンフ)及びYouTube動画を製作する。
- ・WEB サイト：TOPページ、数ページ、動画やパンフをアップしていく
- ・多言語パンフレット(デジタル)：3か国対応、留学生を受け入れている、検討する専修学校及び熊本の生活環境情報、A4 カラー12P、A4 カラー4P (ダイジェスト)
- ・YouTube動画：3か国対応、留学生が熊本県で学び・住んで・就職することを訴求する動画を作成する。 3か国×5本(超短編) = 15本

①-6. SNS等による情報発信・広告 熊専各 専門学校

- ・上記で作成した多言語パンフレット(デジタル)、YouTube動画を3か国に在住する留学生に向けて効果的に、SNS等による情報発信・広告を行う。
- ・3か国の事情に対応したメディアミックスによる広告を行う。
- ・熊本留学フェアの開催も告知のコンテンツの1つとし、現地の日本語教育委機関と連携して情報発信を行っていく。
- ・熊本県内の3か国のコミュニティーを通して情報発信を行っていく。
- ・(例) 有料広告 3か国×SNSメディア10本 = 30本

【受入れ促進強化】

①-7. ターゲット国での熊本留学フェアの開催 熊専各 専門学校

- ・熊本県の専修学校を広く国外に発信し、より多くの外国人留学生在が熊本県を留学先として認知してもらうために、熊本県留学フェア・説明会を実施する。
- ・ミャンマー、モンゴル、台湾 各国1回ずつリアル開催(国によってはオンラインで数回)
- ・熊本県の専修学校、県内外の日本語学校 数校が学校説明会
- ・合わせて、熊本県の魅力を発信、個別の質疑応答、相談会
- ・オンライン併用で、熊本の専修学校と現地を繋ぎ、説明会等を開催
- * 各国の状況に合わせて、単独開催、又は留学フェアへの出展やジャパンフェスティバルへの参画を行う。(国によってはオンラインで数回)
- ・開催時期：R7年7月～11月 各国1回ずつ開催



- * ターゲット国については、国内在住の留学生の受け入れも促進していく。具体的には、福岡都市圏で開催される会場での熊本県留学フェア・説明会も行い、参加者を増やしていく。
- ・対象学生の参加者数：3か国合計 40人

①-8. ターゲット国内でのワンストップ情報センターの設置 熊専各 専門学校

- ・熊本県における留学・就職情報、奨学金等の補助に関する情報に触れることができるワンストップ情報センターを設置する。単発の熊本県留学フェア・説明会の告知だけではなく、常時、熊本への留学の相談や就職等の相談の窓口と合わせて、情報発信の拠点としていく。併せて、熊本県との連携を図り、相談窓口を設け、留学から就職までの一貫したサポート体制を構築する。

→岡山大学のOJC(岡山日本語センター)による広報活動が成功例。

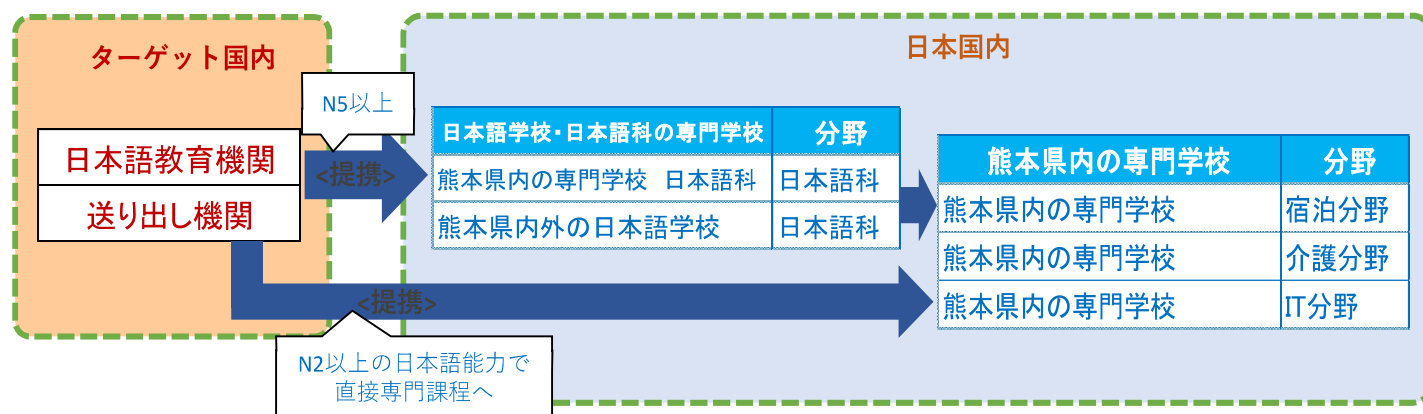
①-9. ターゲット国の日本語教育機関及び国内日本語学校との提携

熊専各

各専門学校

- ・県内の専門学校の特設課程で、ターゲット国の留学生を受け入れる実績を作っていく。
- ・ミャンマー、モンゴル、台湾の日本語教育機関との提携・継続含む。
3か国×5か所＝15件（提携・継続含む）
- ・県内外の日本語学校との提携を進めて、日本語学校＋専修学校の3.5年コース等を設けて、R7年度から3か国からの留学生の入学を行う。

(提携の取組み例)



①-10. 留学生誘致支援「一般社団法人大学コンソーシアム熊本」支援（企画課）

熊本県

- ・「一般社団法人大学コンソーシアム熊本」の留学生誘致に係る以下の取組みを支援。
(例) ・留学生ワンストップ窓口の設置
・SNSを活用したネットワークの構築・交流促進 等

■在学中〔教育指導〕〔在籍管理、生活支援サポート〕

②-1. 台湾人留学生向け短期滞在受け入れモニター実施 **熊専各** **専門学校**

- ・遊学(短期プログラム)プログラムの受入れをモニターとして実施する。
- ・内容：専門学校＋地域自然・文化体験、自治体連携プログラムを作成。
- ・実施機関：R7年度 1～2W/1～3か月間のプログラム。（一部滞在費の助成）
- ・参加者：10人 20代～40代。
- ・モニターとして、アンケート等を取り、本格プログラムに向けて検証する。

②-2. 留学生向け日本語能力強化策（多言語学習アプリ運用） **熊専各** **専門学校**

- ・学習コンテンツの提供 日本語学習、日本の生活・就職マナー（全430問）、
- ・日本語、ミャンマー語、モンゴル語、中国語（繁体）、英語、中国語（中文）、ベトナム語、インドネシア語、ネパール語対応。前年度作成したアプリを利用する。
- ・アプリ利用： R7年度200アカウント
- ・県内の専門学校の留学生に200アカウントを提供して、多言語学習アプリを導入して、利用してもらい、利用状況等を調査する。

②-3.(①-4.と重複)

②-4. 熊本県外国人サポートセンター運営（熊本県国際協会） **熊本県**

- ・熊本に住む外国人のみなさんが、安心して生活できるための相談窓口。
- ・外国人の方が安心して暮らせるよう、在住外国人や地域住民からの生活全般に係る相談に対応。＜22言語、平日9-17時＞

②-5. 地域日本語教室推進（国際課） **熊本県**

- ・やさしい日本語を通じて、地域住民と在住外国人が交流を深める「地域日本語教室」を開設・運営する市町村を支援。

熊本県

②-6. 観光公式サイト等での多言語での情報発信、24時間多言語コールセンター（観光振興課）

- ・観光公式サイト・SNSでの多言語での情報発信、観光パンフレット、観光案内標識の多言語化。
- ・外国人観光客と県内対象施設の円滑なコミュニケーションを支援する24時間多言語コールセンターの設置。

②-7. 「熊本県24時間多言語コールセンター」活用の医療機関受診支援（医療政策課） **熊本県**

- ・外国人が医療機関を受診する際のコミュニケーションを電話通訳サービスにより支援する。
- ・なお、外国語対応医療機関等に係る情報提供は、厚生労働省の全国統一システム「医療情報ネット（ナビイ）」を活用。

②-8. 多文化交流の場、多文化共生の情報交換の場 **K-KURASU**

- ・「つながる交流会」・・・2ヶ月に1回（不定期）で開催している外国人と熊本の日本人との食事会。この交流会は、災害発生時に外国人への支援を円滑に行うために、平時から顔の見える交流をし、それらつながっている外国人を通して、県内に在留する外国人への情報提供、支援をスムーズに行い、外国人が孤立しないようにすることを目的として開催している。

■就職・定着支援

③-1. 教職員向け「在留管理、就職支援セミナー」

熊専各

専門学校

- ・学生の受入れ、学生管理、卒業後の進路（就職）に関し、要点を解説することを留学生管理の一助とする。留学生の就労範囲が拡大される中で、最新の動向を伝える。
- ・留学生が国内就労する際に必要な在留資格変更に関する基礎的な知識や企業ニーズの現状、学生指導に関する最新情報を教育関係者に提供する。
- ・対象者：留学生を既に受入れている、今後検討している専修学校の教職員
- ・回数：リアルとオンラインを併用して2回実施

③-2. 企業・民間団体向け「外国人就職に関する定期的情報提供」

熊専各

- ・R6年度企業むけ調査で、外国人材の雇用に関する情報提供を希望する企業が45社にのぼり、専門学校の卒業生と企業のマッチング支援をサポートできる。また、「外国人留学生に選ばれる熊本」プランとも連動して、行政、民間団体、業界団体、企業と専修学校のコミュニケーションを定期的に図っていく。
- ・行政、民間団体、業界団体、企業、専修学校の外国人材の雇用に関する情報の定期的発信（コンテンツは、各行政、民間団体、業界団体、専修学校のもの）
- ・ニュースレターの発行：メール便、年4回、セミナー、意識啓発等の案内

③-3. 企業向け「留学生・外国人受入れ促進セミナー」

熊専各

- ・R6年度企業むけ調査で、外国人材の雇用に関する情報提供を希望する企業が50社あった。これを踏まえてこれから留学生を受け入れる企業向けに、留学生受け入れの際の注意事項や就労制度、出身国の文化・宗教に対する理解を深めるセミナーを実施する。
- ・留学生受入れ促進セミナー開催 年1回
- ・外国人材受入セミナーの実施。

③-4. 「留学生就職・定着フェア」「外国人材と企業のマッチングイベント」開催

熊専各

- ・「留学生に選ばれる熊本」を目指して、就職・定着までを見据えた3分野「留学生就職・定着フェア」を開催する。
- ・3分野における「留学生就職・定着」ブース出展
- ・3分野を含めた「外国人材と県内企業のマッチングイベント」の開催。

③-5. 外国人材活躍促進支援「やさしい日本語講座」（商工政策課）

熊本県

- ・外国人材受入事業者へ「やさしい日本語講座」、個別企業支援を実施。

③-6. 相談窓口「外国人材受入企業支援センター」設置（商工政策課）

熊本県

- ・外国人材の雇用に関する相談「熊本県外国人材受入企業支援センター」を開設。

③-7. 送出国向け熊本で働く魅力のPR動画、パンフレット、SNS配信（商工政策課）

熊本県

- ・送出国（ミャンマー、カンボジア）向けに現地語で熊本で働く魅力をPRする動画、パンフレットを作成。
- ・SNSを通じた広告配信を実施。

③-8. 熊本で適切に働き、生活するための仕組み作り

K-KURASU

- ・県内の60近い企業・団体で構成するKumamoto Kurasuでは、「熊本宣言」を通じて、就業前に仕事内容・収入・生活など正確な情報を提供することで就業後のギャップ（こんなはずじゃなかった）を少なくする取り組みを遂行。また、シンポジウム、セミナーなどを通じて、県内関係者に外国人材の適切な受入への理解を促進している。

②台湾人留学生向けの短期滞在受け入プログラム

■台湾人留学生向けの短期滞在受け入プログラム策定の位置づけ

- ・一般社団法人熊本県専修学校各種学校連合会は、文科省「専修学校の国際化推進事業」において、令和6年度から令和9年度の4か年間で、『留学生が「学び・住み・就職して良し」の熊本』（以下「本事業」という）を推進していきます。
- ・本事業は、熊本県内の専修学校や県内外の日本語学校及び県内企業・民間団体と熊本県国際交流団体が一体となり、戦略的な留学生の受け入れから熊本県内への定着を見据えた就職支援等を行っていくものです。
- ・本プランは、【外国人留学生に選ばれる熊本】を実現していくために、台湾人留学生が、観光ビザ等の短期間で熊本県を訪れて、滞在しながら日本語および日本文化について学習するプログラムの策定します。また、日本の学生と交流するプログラムを策定します

【台湾の市場】

- ・人口 2340万人(台北250万、新北400万、台中280万、高雄180万)
- ・超少子高齢化社会
日本を上回るスピードで進み、2050年65歳以上35%を超えると予測されている。
- ・超高学歴社会
社会における競争が進み、台湾では博士号を持っていれば手当がつく。という流れが、超高学歴社会を生み出しており、大学進学率は88%と、修士号、博士号を持っている人が多い。
- ・高専のようなTSMCを支える工業系5年間の学校も教育改革により大学になった。
- ・学生を確保するため、中国に行って学生を探す。
- ・GDPは伸びており、緩やかに成長している。2024年の成長率は3%以上と予測。
- ・失業率が低く、3.43%と23年振り低水準
- ・中国の影響を受けにくくするために、他のアジアの国に工場を移す新南向政策が進んでいる。
- ・6年前、日本語が第2外国語として国が指定し、全ての高校で取り入れている。

【留学生市場】

- ・海外留学ビザ取得総数 2023年36,492名
- ・日本留学ビザ取得者数 2023年5,068名（アメリカが1位、日本は2位）
- ・日本における台湾人留学生数は全体で6,998名。ビザ取得者数と近い数字ということは、在籍期間が短い、学部生が少ないという特徴がある。
- ・留学希望者の半数以上がN5以上を取得している。
- ・2024年76,000名が日本語能力試験を受験。
- ・観光ビザでの留学(遊学)を希望する傾向が強い。
- ・大学卒業後、1～2年社会人を経て留学する傾向がある。
→自分で稼いで留学費を支払っている。親が至便者はあまりいない。
- ・人気のある分野・専攻はイラスト・デザイン系が多い。日本の方が専門的なことが学べる分野の人気の高い。
- ・観光分野については、日本よりも観光に関する学科が細かく分かれている大学が多い。
- ・学校数が多く、寮があるため関東・関西への留学が多い。
- ・台湾人が日本で働きたい理由は、将来のキャリアアップのために日本での仕事体験・学習したいから。

表1 各年の海外留学ビザ取得総数及び日本留学ビザの取得者数

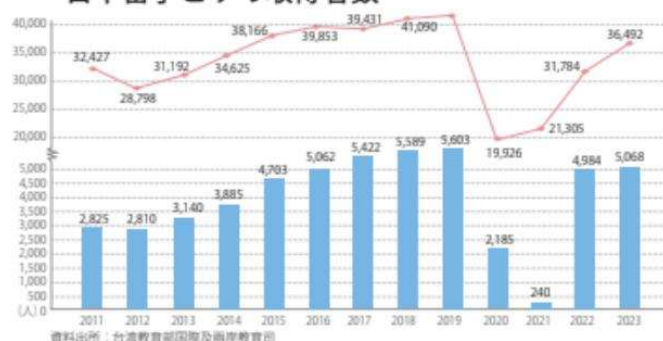


表2 海外留学先国別構成



【台湾からの留学生受入れの課題】

○台湾の留学生市場

・留学理由

語習得：6割 進学：4割

語習得はワーホリ、就職34割(卒者)、帰国など

進学希望のうち、専学校進学6割

→デザイン、ファッション、美容、動物など人気

・留学希望者ほぼ“大学卒”

20代後半30代が多い→学卒業後、社会を経験したのち留学

日本の専学校でより専的なスキルをにつけたい(スキルアップ、学び直し)

→本就職したい、外国で暮らしてみたい

<留学ニーズ>

①短期=遊学

②語学+観光

③語学+学び

○台湾からみた熊本と課題

・熊本

TSMC関連で熊本の認知度は格段に上がった

ここ12年で熊本や九州に観光で訪れるが増加した

ITでのビジネス連携や不動産投資に関する話題が増加

・課題

短期の留学プログラムがない

日本本語学校の数、枠数が少なかった

専学校や本語学校の情報が少ない、よく知らない

日本の景気悪化や円安の影響から、活費が安いことは魅力的ではなくなった。

【留学生受入れの展開】

- ・留学先として九州を選択する学生が少ない。旅行で訪れた経験から、留学地を決める方もいるので、熊本県の観光や魅力発信に力を入れる必要がある。
- ・熊本を留学先に選んだが、日本語学校の受入可能な枠が少なく、留学先を福岡へ変更する学生もいる。
- ・TSMCの影響で、熊本に対する問い合わせが増えてきているが、短期での受入プログラムが無く、熊本への留学を諦める方もいる。
- ・他地域の先行事例を参考にしながら、寮や生活面でのサポートを行えば、留学生に選ばれる熊本に近づけるのではないかな。

○遊学(短期プログラム)

- ・1～2W/1～3か月間のプログラム。
- ・20代後半がターゲット
- ・語学+観光、文化体験、
語学+不動産(物件探し、知識習得)
語学+イラスト・デザイン(森校、コアミックスコラボ)

○国内在住台湾向け

- ・在台湾向けの熊本プログラム
- ・TSMC家族滞在者向け、語学+観光
- ・TSMC社員に、どもの教育、サマーキャンプ学、専学校、本語学校向け

○導体関連IT企業

- ・注式教育企業への参画
- ・インターン、就職先の連携
- ・半導体関連のITスキル授業化

【遊学(短期プログラム)】

- ・テーマ：阿蘇の雄大な自然と熊本の街と史跡を巡る、「日本を体験する」旅へ
- ・主体者：熊本YMCA学院、旅行企画：YMCAトラベル
- ・滞在期間：3泊4日から1ヶ月間滞在の3プログラム

① 3泊4日滞在行程案

【1日目】

熊本空港到着・YMCA阿蘇キャンプへ移動・到着
オリエンテーション・施設案内・チェックイン
阿蘇キャンプ周辺散策
夕食：バーベキュー
入浴：温泉体験

【2日目】

朝食 YMCA阿蘇キャンプ
移動：電車・バスで移動
草千里・阿蘇頂上火口見学
昼食（草千里レストラン）
阿蘇神社参拝・商店街散策 or 体験プログラム
夕食：熊本郷土料理

【3日目】

朝食
市内のホテルへ移動、チェックイン
日本語学習
自由行動：熊本市街地・ショッピング等
夕食

【4日目】

朝食
熊本城見学・城彩苑見学
熊本空港へ移動

② 1週間滞在行程案

【1日目】

熊本空港着 YMCA職員が出迎えます。
YMCA阿蘇キャンプへ移動
チェックイン・入浴
夕食（YMCA阿蘇キャンプ）

【2日目】

朝食
阿蘇頂上噴火口見学（電車・バスにて移動）
阿蘇五岳登山・阿蘇周辺の自然散策等
夕食（YMCA阿蘇キャンプ）

【3日目】

朝食
阿蘇神社見学・カルデラハイキング等
YMCA阿蘇キャンプから市内ホテルへ移動
市内ホテルチェックイン フリータイム

【4日目】

朝食
熊本城見学（徒歩）
水前寺公園見学 or 体験プログラム
夕食（市内レストラン）

【5日目】

朝食
日本語学習・体験プログラム
フリータイム

【6日目】

終日フリータイム

【7日目】

午前中フリータイム
熊本空港へ移動

【遊学(短期プログラム)】

③ 1 か月間滞在行程案

【1日目～7日目】

熊本空港着・YMCA阿蘇キャンプへ移動

チェックイン・入浴

阿蘇頂上噴火口見学

阿蘇五岳登山・阿蘇周辺の自然散策等

阿蘇神社見学・カルデラハイキング等

農業ボランティア体験

野外料理体験 等

食事について

基本的にYMCA阿蘇キャンプにて提供します。

※バーベキュー・郷土料理・野外調理・ピザ作り
等

【8日目～15日目】

YMCA阿蘇キャンプから、熊本市内ホテルへ移動

熊本市内観光

参考：熊本観光お勧めスポット

日本語学習・フィットネス・プール・健康体操

子ども・学生との交流会 等

【16日目～23日目】

日本文化・芸能見学、体験

日本の家庭生活を体験、家庭料理を楽しむ

地元のお祭りやイベントに参加 等

【24日目～30日目】

オプション観光・体験プログラム

要望によって熊本県外への交通・宿泊手配も可能です。

【最終日】

熊本空港へ移動



YMCA阿蘇キャンプ

熊本YMCAが提供する自然体験型の宿泊・研修施設です。阿蘇の豊かな自然に囲まれ、四季折々の風景を楽しめる場所に位置し、家族向けや子ども向けプログラムから企業研修まで幅広いニーズに対応しています。メインロッジやキャビンでの宿泊に加え、専属シェフによる手作り料理も魅力の一つです。



メインホール

YMCA阿蘇キャンプのメインロッジは広ゆったりとした空間に、木の温もりが溢れます。メインホールは阿蘇五岳と自然の景色に包まれ、研修会や音楽会、食事会など多様なイベントに対応が可能です。仲間とともに学び、楽しみむことができる空間となっています。



温泉

YMCA阿蘇キャンプ近くの温泉施設では、阿蘇の地熱と豊富な湧き水による温泉を楽しむことができます。自慢の広々とした露天風呂では、空気が気持ちよく、体を芯から温める特別な体験ができます。また、サウナも充実しており、心も体もリフレッシュすることができます。



宿泊室

YMCA阿蘇キャンプには洋室と和室、キャビンがあり、用途に応じて家族や友人と快適に過ごせます。室内には洗面台とトイレが完備され、静かな環境で家族や仲間とのひとときを楽しむことができます。和室には畳が敷かれており、日本文化を感じながらくつろげる空間となっています。



料理

YMCA阿蘇キャンプには専属の料理人が常駐し、日本の四季に合わせた彩り豊かな料理を提供しています。熊本ならではの郷土料理も堪能でき、旬の素材を活かした一品一品が味覚で季節を感じさせます。さらに、お客様のお好みに応じた料理や、食物アレルギーを考慮したメニューにも対応でき、安心して食事を楽しむことができます。



星の広場

敷地内にある「星の広場」は、多目的に利用できるエリアです。テント泊やアーチェリーなど、様々なアウトドアアクティビティを楽しむことができます。夜になると星空が広がります。また、焚火やキャンプファイヤーも楽しむことができ、特別な時間となり日常から離れた空間となります。

【遊学(短期プログラム)】

◎滞在中の阿蘇でのアクティビティ



草千里

阿蘇山の頂上付近に広がる美しい草原です。雄大な景色の中に池や草地在し、放牧された馬や牛がのんびりと過ごす様子が見られます。周辺には遊歩道もあり、阿蘇の自然を間近で感じながら散歩できます。火山が作り出した壮大な景観は、観光客に人気のフォトスポットとしても魅力的です。



阿蘇五岳

阿蘇の中心に聳える代表的な5つの山々は、YMCA阿蘇キャンプから車で30分で行くことができ、山頂の噴火口を間近に見ることができます。登山ルートも多く、初心者から上級者まで楽しむことができます。阿蘇五岳を中心に広がるカルデラをはじめ、火山が作り出す独特の地形は、自然の雄大さを感じることができます。



カルデラハイキング

阿蘇キャンプから歩いて行けるハイキングコースは、阿蘇の壮大な景観を存分に感じられます。阿蘇五岳と草原の美しさを眺望し、訪れる人に感動を与えます。道中には季節ごとの野生の植物や花々が咲き、澄んだ空気とともに心身をリフレッシュすることができます。



バーベキュー & 野外料理

YMCA阿蘇キャンプでは、自然の中で仲間と囲むバーベキューが楽しめます。他にも、ピザ窯での本格ピザ作り、ダッチオーブン料理、アウトドアならではの料理も楽しむことができます。実際の炎を使い、みんなで相談しながら試行錯誤して作る野外炊さんは、人気のあるプログラムのひとつです。



農業体験ボランティア

地元の農家の指導のもと、田植えや農作物の収穫、栽培、片付け等の体験をすることができます。作業を通じて日本の農業の楽しさと難しさを体感することができます。自然の恵みや食の大切さについて深く学ぶ機会となり、成長につながる貴重な経験となるでしょう。



キャンプファイヤー

YMCA阿蘇キャンプでは、夜に炎を仲間と囲み、特別なひとときを楽しむことができます。火を囲んで歌い、踊り、ゲームをすることで一体になり、心に残る素敵な思い出が生まれます。日常から離れた非日常の体験となり、参加者にとって一生忘れない体験になることでしょう。

◎滞在中の熊本の街と史跡を巡る



熊本城

1607年に武将、加藤清正が築いた日本を代表する歴史的な城です。特徴的なのは、急角度で作られた「武者返し」と呼ばれる石垣で、戦時に敵が登りにくいよう設計されています。2016年の地震で大きな被害を受けたものの、現在も復元が進められており、その過程も訪れる魅力の一つです。場内見学では様々な日本の歴史に触れる展示があり、天守閣からの眺めも素晴らしいものです。熊本市街地のホテル



城彩苑

熊本城のすぐそばに位置し、熊本の歴史と文化を感じながら地元の味覚や伝統工芸に触れることができる観光スポットです。広場には飲食店やお土産店が並び、熊本ならではの食材を使った料理が楽しめます。また、伝統的な催しや衣装のパフォーマンスも魅力です。熊本城を背景に、地元の文化を堪能できるため、熊本旅行のハイライトとしてぜひ訪れたい場所です。



霊巖洞

宮本武蔵が生誕の最後に訪れたとされる場所で、ここで「五輪書」を執筆したとされる洞窟です。自然に囲まれた静寂の中にあり、武蔵が晩年に武道と精神を深めた場所です。洞窟内には、武蔵の精神を象徴する五輪塔があり、武士の生き方に触れることができます。日本の伝統と歴史の深さを感じられる、特別な観光スポットとして人気で



水前寺成趣園

熊本市にある美しい日本庭園です。江戸時代に築かれたこの庭園は、壮大な景観や、四季折々の植物が魅力で、心を落ち着かせる癒しの空間を提供しています。日本庭園の池の周りを通ることができる散策道は、豊富な湧き水の流れを楽しめます。日本文化の趣と熊本の自然を感じながら、ゆっくりと散策するのに最適な場所です。



藤崎八幡宮

熊本市の歴史ある神社で、1000年以上の歴史を誇ります。熊本の守護神として多くの地元民に親しまれ、武運や厄除けの神様として信仰されています。毎年秋に行われる「藤崎八幡宮秋の例大祭」では、馬に彩り豊かな装飾を施して街中を練り歩く「馬追い」が見どころで、多くの観光客を魅了します。日本の伝統と地域文化に触れる場所としておすすめです。



熊本博物館

熊本市の歴史、自然科学、文化などを学べる施設です。甲冑や刀剣等の展示や、日本として熊本の歴史を学ぶことができます。日本の自然や伝統文化について深く知ることができ、子供から大人まで楽しむことができます。また、最新機器を用いたプラネタリウムも家族連れや観光客にも人気です。

【遊学(短期プログラム)】

◎滞在中の日本語学習や交流体験



日本文化体験

日本の文化と日常生活を深く学ぶことができます。日本独特の生活スタイルや文化、芸能やものづくりなどに触れる機会を体験できます。また、日本独特の礼儀や伝統的な行事に触れることができます。交流を通じて、日本語や地元の習慣についても学べるため、異文化交流を楽しみつつ、一生の思い出を作る特別な時間になることでしょう。



交流

YMCAの学生との交流会を行います。街歩きや日本の家庭料理作りを一緒に楽しむことで日本文化に触れることができます。また、実際に授業に参加し、日本の教育の現場も体験することで、言葉や文化の違いを超えて絆を深めます。滞在中、YMCAの様々なイベントに参加することができます。



日本語学習

熊本YMCAの日本語学院は、豊富な経験を持つ講師陣による、質の高い日本語教育を提供しています。初心者から上級者まで、目的やレベルに応じたクラスが充実しており、日常会話からビジネス日本語まで幅広く対応しています。少人数制クラスで、実践的な日本語スキルを効率よく身につけることができます。



フィットネス

熊本YMCAのフィットネス施設が充実したご滞在をサポートします。トレーニング初心者から上級者まで幅広く対応し、広々としたプールではリラクゼーションや水中運動にができます。また、健康体操やストレッチの専門的な指導も行っており、年齢や体力に応じた無理のない運動でサポートします。



城下町探訪

熊本は市街地だけでなく、白壁の蔵や武家屋敷が並ぶ江戸時代から続く街並みも楽しむことができ、当時の人々の暮らしが感じられます。自転車を利用して散策することもでき、熊本名物の食べ歩きも楽しみの一つです。地元の味に触れながら、ゆっくりと城下町を巡ることで、熊本の歴史と人情が心に深く響く旅を楽しむことができます。



熊本市街地

下通や上通のアーケード街は、天候を気にせずショッピングを楽しむことができます。また、馬刺しや辛子蓮根、あか牛の料理等熊本ならではのグルメも必見です。おしゃれなカフェも多く、ショッピングと食事の両方で心が満たされる、熊本市街地ならではの豊かなひとときをお楽しみください。